

(商品別輸入)

2010年12月3日(金)

品目	2009年度 (実績)		2010年度 (見込み)				2011年度 (見通し)		コメント		
	10億円	伸び率%	上半期 (実績)		下半期 (見込み)		10億円	伸び率%			
			伸び率%	伸び率%	伸び率%						
総額	53,781	▲25.2%	30,689	+20.8%	30,568	+7.7%	61,257	+13.9%	↑ 61,871	+1.0%	
IM 食料品	4,972	▲17.0%	2,729	+6.9%	2,460	+1.7%	5,189	+4.4%	↓ 5,124	▲1.2%	魚介類、肉類に次いで金額の大きい果実及び野菜では、国産野菜が猛暑の影響で品薄になり、増加。果実の中で最も輸入量が多いバナナはバナナダイエットブームが一巡したこと、減少。
魚介類	1,197	▲13.7%	648	+3.8%	565	▲1.4%	1,213	+1.3%	↓ 1,190	▲1.9%	エビは、米国の買い付け増加、東南アジアでの生産量の減少等から価格が上昇し、輸入量が減少。まぐろは、消費者の低価格志向により、高級部位を中心に需要低迷。各漁場で漁獲量の減少がみられるものの、価格は上昇せず。
肉類	876	▲18.2%	519	+15.1%	451	+6.1%	970	+10.7%	→ 966	▲0.4%	牛肉は、円高、国産品と比較して割安であることから、輸入量が底堅く推移するものの、価格の上昇は限定的。豚肉は、上半期に輸入在庫が増加したため、下半期にかけて在庫消化に伴う輸入量の調整が行われる。鶏肉は、前年の反動、消費者の節約志向を背景に牛肉、豚肉から需要がシフトしていること、主要輸入先であるブラジル産品の価格上昇等から大きく増加。
IM 原料品	3,586	▲28.8%	2,407	+42.6%	2,873	+51.3%	5,280	+47.2%	↑ 5,540	+4.9%	原料品全体では下半期も増加基調が継続し、通年で5割近い増加。
鉄鉱石	813	▲38.8%	694	+83.6%	846	+94.6%	1,540	+89.4%	↑ 1,642	+6.6%	下半期の鉄鉱石輸入は、エコカー補助金終了および円高による国内景気の減速等の減少要因があるものの、新興国における鉄鋼製品需要の拡大、市況上昇もあり通年で大幅増。
非鉄金属鉱	1,178	▲17.1%	708	+28.1%	763	+21.9%	1,470	+24.8%	→ 1,461	▲0.6%	下半期は、銅製錬所の減産幅拡大、炉修等の影響により上半期から数量の増勢が鈍化するが、単価は、足元の上昇基調が継続し、金額は大幅増。
IM 鉱物性燃料	15,232	▲37.8%	8,595	+25.4%	8,685	+3.7%	17,280	+13.4%	↑ 17,451	+1.0%	下半期の価格は上半期に比べ総じてやや高めに推移すると想定。上半期は金融危機による大幅な落ち込みによる反動から、上昇に転じたが、下半期は国内需要の伸び悩み等から輸入増加は限定的。
原油及び粗油	8,587	▲37.0%	4,558	+19.6%	4,585	▲4.0%	9,143	+6.5%	↓ 8,999	▲1.6%	新興国の旺盛な需要と、ドル安傾向から、下半期の原油価格そのものは上半期に比べやや高めに推移する見込み。輸入数量は、日本国内の恒常的な需要減の影響を受けるも、リーマン・ショック後の緩やかな景気回復、夏場の堅調な需要を受けて、通年で微増の見通し。
石油製品	1,337	▲33.2%	770	+29.2%	782	+5.6%	1,552	+16.1%	↓ 1,317	▲15.2%	新興国の旺盛な需要と、ドル安傾向から、原油価格そのものは上半期に比べやや高めに推移する見込みだが、円高により入着価格そのものは下落。輸入数量は、国内の製油所の生産調整から国内の精製品が割高になっているため、増加傾向にあり、下半期も増加基調。
LNG	2,833	▲37.0%	1,730	+44.1%	1,856	+13.7%	3,586	+26.6%	↓ 3,640	+1.5%	下半期は、原油価格が上半期に比べやや高めに推移する見込みのため、LNG輸入価格も連動し高めに推移する見込み。輸入数量は、上半期は猛暑によって電力需要が高まり比較的高い伸びを示したが、下半期は微増。
LPG	644	▲35.2%	392	+45.2%	383	+2.4%	775	+20.4%	↓ 794	+2.4%	2010年度下半期は、原油価格が上半期に比べやや高めに推移する見込みのため、LPG輸入価格も連動し高めに推移する見込み。輸入数量は、通年で3.4%増。生産活動の回復から工業用需要が回復しつつある一方、家庭用需要は上半期に給湯用需要が猛暑のために減退。下半期は、制度変更に伴うLPGからの精製品の生産縮小などから、LPG輸入は小幅増にとどまる。
石炭	1,810	▲44.4%	1,122	+15.6%	1,076	+28.0%	2,197	+21.4%	↓ 2,399	+9.2%	中国など新興国において原料炭、一般炭ともに需要が旺盛であり、新規供給が追いつかず価格が上昇。2009年度上半期に景気後退から輸入量が急減した反動により、2010年度上半期の輸入量は急回復、下半期はこの反動がなくなるためほぼ横ばいと見る見通し。
IM 化学製品	4,825	▲10.8%	2,736	+19.7%	2,855	+12.4%	5,591	+15.9%	↑ 5,837	+4.4%	国内総供給に占める輸入品の割合は金融危機前の水準を回復、輸入額は2009年度に比べ大幅増も2007年度並みの水準。医薬品やプラスチックのシートおよびフィルム等の輸入は、円高を追い風に増加傾向が続く。
IM 原料別製品	4,519	▲32.4%	2,789	+33.2%	2,707	+11.6%	5,496	+21.6%	→ 5,473	▲0.4%	原料別製品全体では、下半期に増勢が鈍化するものの、通年では増加が継続。非鉄金属は、上半期においてエコカー補助金の駆け込み需要等があり数量が大きく増加したことに加え、通年での市況の上昇もあり大幅増。織物用糸・繊維製品も自動車用製品などの産業用途を中心に上半期に増加したものの、下半期には回復一巡となり、通年では減少。
鉄鋼	500	▲55.4%	403	+97.1%	347	+17.3%	750	+49.9%	↓ 722	▲3.7%	円高の影響もあり、鋼材輸入は、中韓台を中心に前年を上回るレベルで推移。
非鉄金属	1,146	▲46.6%	853	+76.8%	869	+31.1%	1,723	+50.4%	→ 1,730	+0.4%	アルミニウム及び同合金は、下半期、エコカー需要の反動減等を受け、数量が伸び悩むものの、市況が高止まりし、金額は上半期を上回る。下半期の白金族の金属は、需要、市況ともに回復しており、上半期並み。非鉄金属全体では、下半期は増勢は鈍化するものの増加継続。
織物用糸・繊維製品	631	▲7.6%	316	+5.1%	300	▲9.1%	616	▲2.3%	↑ 643	+4.3%	自動車、電気機器などの生産回復に伴い、自動車用製品や包装資材など一部の産業用途は上半期に回復。最終消費財も下半期にかけて上向きに。ただし、下半期には産業用途の回復一巡などが見込まれ、再びマイナスに。
非金属鉱物製品	502	▲19.7%	275	+13.4%	240	▲7.5%	515	+2.6%	→ 520	+0.9%	ガラスおよび同製品は、下半期にはエコカー需要の反動減等の影響により、自動車向けを中心に減少し、住宅向け需要も伸び悩む。通年では、エコカー補助金の駆け込み需要等により好調だった上半期の影響で微増。
IM 一般機械	4,316	▲22.1%	2,477	+18.3%	2,420	+8.9%	4,897	+13.5%	↓ 4,800	▲2.0%	電算機類、電算機類の部分は、堅調に推移。エアコンにおけるエコポイント効果はあるが、年度を通じた金額への貢献は限定的。
電算機類 (含周辺機器)	1,353	▲17.4%	775	+23.4%	809	+11.6%	1,584	+17.1%	→ 1,587	+0.2%	景気回復に伴い企業の買い替え需要が顕在化し、個人市場では一体型のデスクトップが牽引して、輸入金額が増加、単価も上昇して輸入金額は上半期・下半期ともに2けた増の見通し。
IM 電気機器	7,001	▲9.5%	4,074	+24.4%	3,770	+1.2%	7,844	+12.0%	→ 7,900	+0.7%	ICは、政策効果もあり、堅調に推移。映像、家電関連はエコポイント効果もあり、終了後の反動減を考慮しても通年では増加。通信機は、海外製のスマートフォンへの切り替えが主な増加要因。
半導体等電子部品	1,919	▲10.0%	1,127	+19.3%	980	+0.6%	2,107	+9.8%	→ 2,123	+0.8%	PC向けは、スクールニューディール等の政策効果もあり、堅調に推移。携帯向けは、海外メーカー産のスマートフォン需要の高まりから、微減。家電向けは、政策効果の影響で通年で増加傾向が続くが、自動車向けは下半期に落ち込む。
IM 輸送用機器	1,502	▲26.3%	861	+25.9%	903	+10.4%	1,764	+17.5%	↑ 1,810	+2.6%	景気回復に伴い、輸送機の輸入は堅調に推移。特に日本メーカーの逆輸入が増加。
自動車	467	▲29.1%	312	+49.6%	330	+27.5%	642	+37.4%	↑ 655	+2.1%	ドイツメーカーのエコカー減税対応モデル数の増加と、日本メーカーのタイ生産小型乗用車の逆輸入が2010年7月より開始されたことにより大幅増加。
航空機類	402	▲24.7%	194	+6.6%	203	▲7.8%	397	▲1.3%	↑ 415	+4.5%	上半期は既に発注済み機材の輸入が堅調に実行。航空機市場はリーマン・ショックから回復基調。
IM その他	7,827	▲12.9%	4,020	+3.7%	3,895	▲1.4%	7,915	+1.1%	→ 7,935	+0.2%	精密機器類は、液晶デバイスが中国・韓国メーカーの値下げ攻勢、国内需要の低迷等から下半期に落ち込む。その他雑製品は、プラスチック製品が前年の落ち込みの反動、原料価格の上昇と円高により増加、玩具および遊具用品は減少傾向が継続。
衣類・同付属品	2,296	▲12.5%	1,176	▲2.3%	1,083	▲0.8%	2,260	▲1.6%	↓ 2,215	▲2.0%	景気が回復局面に入り、上半期は女性衣料や下着などでは輸入数量が増加したものの、男性衣料やセーターなどの減少が続く。下半期は、原料価格高騰と中国の買上げにより価格は上昇に転じ、輸入数量は減少。通年の輸入金額は、4年連続の減少を見込む。
製品輸入	29,991	▲17.6%	16,958	+18.5%	16,550	+5.5%	33,508	+11.7%	→ 33,805	+0.9%	製品輸入比率54.7%(前年度比マイナス1.1ポイント)
											製品輸入比率54.6%(前年度比マイナス0.1ポイント)

*金額は億円単位を四捨五入、2010年度上半期の実績は9桁速報ベース

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している